

・復活後第五主日

# 泉のほとり

今月の詩編「第三十三編」

主に従う人よ、

主によって喜び歌え。

主を賛美することは

正しい人にふさわしい。



## 自分の命を愛する者は それを失う

主が過越祭のいけにえとして死なれる時が刻々と迫ってきました。一方、祭りに来ていた大勢の群衆は、主がエルサレムに来られると聞き、なつめやしの枝を持って迎えに出、「ホサナ。主の名によって来られる方に、祝福があるように、イスラエルの王に」と叫び続けました。「ホサナ」とは、「どうか、お救いください」という意味です。人々はイエスを「イスラエルを「救う」王である」と叫び続け、待ち望んでいたメシアの出現を喜んでいたので、ファリサイ派の人たちが「見よ、何をしても無駄だ。世をあげてあの男について行つたではないか」と言うほど、大勢の人がキリストを歓迎していたのです。

そこに、数人のギリシア人から、弟子のフィリポに「お願ひです。イエスにお目にかかりたいのです」との申し出がありました。主はそのギリシア人たちに、また弟子たちに「一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ。自分の命を愛する者は、それを失うが、この世で自分の命を憎む人は、それを保つて永遠のいのちに至る」とお答えになりました。「お目にかかりたい」、「イエスに仕えたい」、「従いたい」と願う人たちに、「あなたがたも、自分の命を惜しまずに、生きる。そうすれば永遠のいのちに至る」と答えられたのです。

墮落した人間は自分自身を優先に考え、生きるものとなつてしまいました。誰よりも偉く、誰よりも上、また先へとする自己中心性を帯びています。人のために自分を犠牲にし、恵みを与える側ではなく、恵みを受ける権利を確保しようとするのです。会社や組織のために献身し、自らを犠牲にするということは「損する」ことだと思つています。損するよくな生き方はしない、よくないと思つています。

わが主は一粒の麦のように地に落ちて死なれる、そのご自分の「十字架」の時を「栄光を受ける時が来た」と表されました。人々はローマを打ち倒す「栄光に輝くイスラエルの王」

を期待していましたが、主は「十字架の時」を「栄光を受ける時」と見ておられたのです。神の国は「十字架」が「栄光」であり、十字架が力であり、十字架が国の根幹にある土台です。

「ホサナ、ホサナ」と歓迎する群衆の叫び声は「あなた自身を犠牲にして、自らをささげて生きる国を喜び、一粒の麦のように自らを惜しまない人になる」ことを歓迎している声ではありませんでした。それゆえに、群衆はこの後、キリストにつきまざり、離れ去って行くのです。

教会は私の代わりに、主が一粒の麦のように死んでくださったことが、教会の土台であることを知っています。教会はその土台の上に、罪の道を歩まず、自分のことだけを考えるこの世のようにではなく、受けるよりも与えることを幸いとするとされたのです。単に「あなたがたも一粒の麦のように死に、自らを惜しまず与えて生きるように」と教えられていません。また「そのような生き方がいいよ」と勧められたのでもありません。十字架による教えを受けているのです。

今も、主の十字架は私たちの中で語りかけています。「かつてこの世において自分を先に、上に、誰よりも恵みの座を占有しようとして生きていたことが、主の十字架の前でいかに恥ずかしいことか」と。また、その古い生き方、古い自分を捨てさせるようにと働きかけています。私たちが自分を後にし、上ではなく下へと、受けるよりも与えるほうへと、そのキリストの力ある業に生き、光栄あるキリストのお姿へと変えられるようにと導かれています。

一粒の麦のように死ぬそのキリストの業に生きる者は、ギリシア人であれ、ローマ人であれ、ユダヤ人であれ、主イエスの国の住人です。それぞれ与えられているところで、自分を与え、差し出すその生き方を、日々主イエスを通して、学び、身につけていきたいものです。それは、この世にあつては死ぬようであり、しかし、永遠のいのちと与っている証しでもあります。私たちの中から、栄光の主イエスが現れるよう、願ひ求めていきましよう。

2024年度

教 会全体課題

聖書の御言葉に生きる。

《今日のお知らせ》

- 礼拝後、讚美集会と「信仰者に学ぶ会」を礼拝堂で行います。
- 運営委員会、各小委員会が開かれます。
- 二〇二四年度「奉仕の単位」を配布しましたので、ご確認ください。
- 次回の洗礼式と転入会式は七月二十八日です。その時に受洗・転入会をご希望の方は願書をお書きになり、五月一九日までに牧師宛にご提出ください。願書は事務所にあります。

《ぶどうの会より》

本日のぶどうの会は休会です。

《今後の予定》

- 五月一九日 ペンテコステ礼拝
- 六月二日 信仰者に学ぶ会

《礼拝伝道委員会より》

『ペンテコステ讚美の会と愛餐会（各自持参）』を五月一九日（日）ペンテコステ礼拝後、地下ホールで行います。

当日のスケジュール

- 【礼拝堂にて】
- 九時一〇分～九時五〇分（子ども礼拝）
- 一〇時三〇分～一一時四五分（ペンテコステ礼拝）

【地下ホールにて】

- 一一時一五分～一二時三〇分（讚美集会）
  - 一二時三〇分～一三時（食事持参の愛餐会）
- 久しぶりの愛餐会です。昼食は各自ご用意くださり、ご参加ください。

《教会事務所より》

○ 二〇二四年度の教会員名簿を作成しています。ご住所、電話番号等の変更がある方はスタッフの宮間までお知らせください。

# 《ジュネーブ教会信仰問答》

## 第三聖日

問一七 この信仰告白を詳しく説明するためには、これを幾つの部分に分けたらよいでしょうか。  
 答 主要な四つの部分に。

問一八 どのような。  
 答 第一の部分は父なる神について、第二はみ子イエス・キリストについて、そしてこの部分には、われわれの贖罪の全歴史が語られております。第三は聖霊について、第四は教会および教会に対する神のもろもろの恵みについての部分であります。

問一九 唯一の神しかおられないのに、何ゆえ父、み子、み霊の三者について暗誦するのですか。  
 答 唯一の神の本質の中に、初めであり源である、あるいは万物の第一原因としての父を、次に永遠の知恵であるそのみ子を、また全被造物の上に溢れていて、しかも常に父の中にある、その徳と力である聖霊を、われわれは熟考すべきであるからであります。

問二〇 そのことは、同一の神の中に、これら三つの人格をわれわれが区別して理解すること、そして、神はそれにもかかわらず分かたれないことは少しも不合理でないというのですか。  
 答 その通りであります。

問二一 では、第一の部分を暗誦してごらん下さい。  
 答 私は天地の造り主、全能の父なる神を信ず。

問二二 なぜあなたは神を父と呼ぶのですか。  
 答 それはイエス・キリストすなわち、永遠の言葉であり、代々に先だつて、神から生まれ、世にあらわされたとき神の子と確認され、宣言せられた、イエス・キリストとの関係においてそうなのであります。しかし神は、イエス・キリストの父である限り、そこからまたわれわれの父でもあられるということになるのであります。

問二三 神が全能であるということをおあなたはどのように理解しますか。  
 答 それは単に、神はみ力をもっているがこれをもうお用いたらないというのではなくて、あらゆる被造物をみ手のもとにしたがわせなざること、すべてのことをみ摂理によつて処理されること、みこころのままに世界を支配し、あらゆる現象を、よしと見られるままに導かれることを意味してあります。

問二四 あなたのいうところによれば、神のみ力は無為にあるのではなく、いよいよ働いている。すなわち、神は常にみ手を働かせ、何事も神によらなければ、あるいは神のみ許しと命令なしには起こらないということになります。  
 答 その通りであります。

# 《今日の子ども礼拝》

説教 「あなたを探される神さま」  
 聖書 ルカ15章1〜10節  
 説教者 吉村 和雄 名誉牧師

# 《次週の礼拝》

●子ども礼拝(午前9時20分・地下ホール)  
 説教 「帰ってきた息子」  
 聖書 ルカ15章11〜24節  
 説教者 宮間 彰広 兄

●主日礼拝(午前10時30分)  
 讃美歌 158番 334番  
 説教 「神からの誉れを愛せよ」  
 聖書 ヨハネ12章27〜43節  
 説教者 黄允湜 牧師





## 主日礼拝 (午前10時30分)

讃美歌 154番 494番  
説教 「心を一つにして」  
聖書 使徒4章23～31節(新約P.220)  
司式 山下 純一 兄  
聖餐司式 黄 允湜 牧師  
説教者 宮間 彰広 兄

前奏曲「主よ、人の望みの喜びよ」J.S.バッハ

### ○ 讃美歌154番

1. 地よ、声たかく 告げ知らせよ  
きょうイエス君は よみがえれり  
いのちの君は あまつ園に  
われらを召して 入れたまえり
2. とこよのひかり てりかがやく  
みくらにいます 君を仰がん  
あめより洩るる かちうたにぞ  
地なるわれらも 声をあわせん
3. あめよ、よろこべ つちようたえ  
ものみなともに ほめたたえよ  
イエス君きょうぞ よみがえれる  
ああかぎりなく さかえの日よ

アーメン

### ○ 讃美歌494番

1. わが行くみち いついかに  
なるべきかは つゆ知らねど  
主はみこころ なしたまわん

(※ くりかえし)

そなえたもう 主のみちを  
ふみてゆかん ひとすじに

2. ころろたけく たゆまざれ

ひとはかわり 世はうつれど

主はみこころ なしたまわん ※

3. あらうみをも うちひらき

すなはらにも マナをふらせ

主はみこころ なしたまわん ※

アーメン

聖餐曲「オッフエルトワール」C.サントゥス

後奏曲「聖なるみ神はこの殿にいます」S.カルク=エート

※ 礼拝のしおりと讃美歌をお持ちください。